



APIパートナー限定

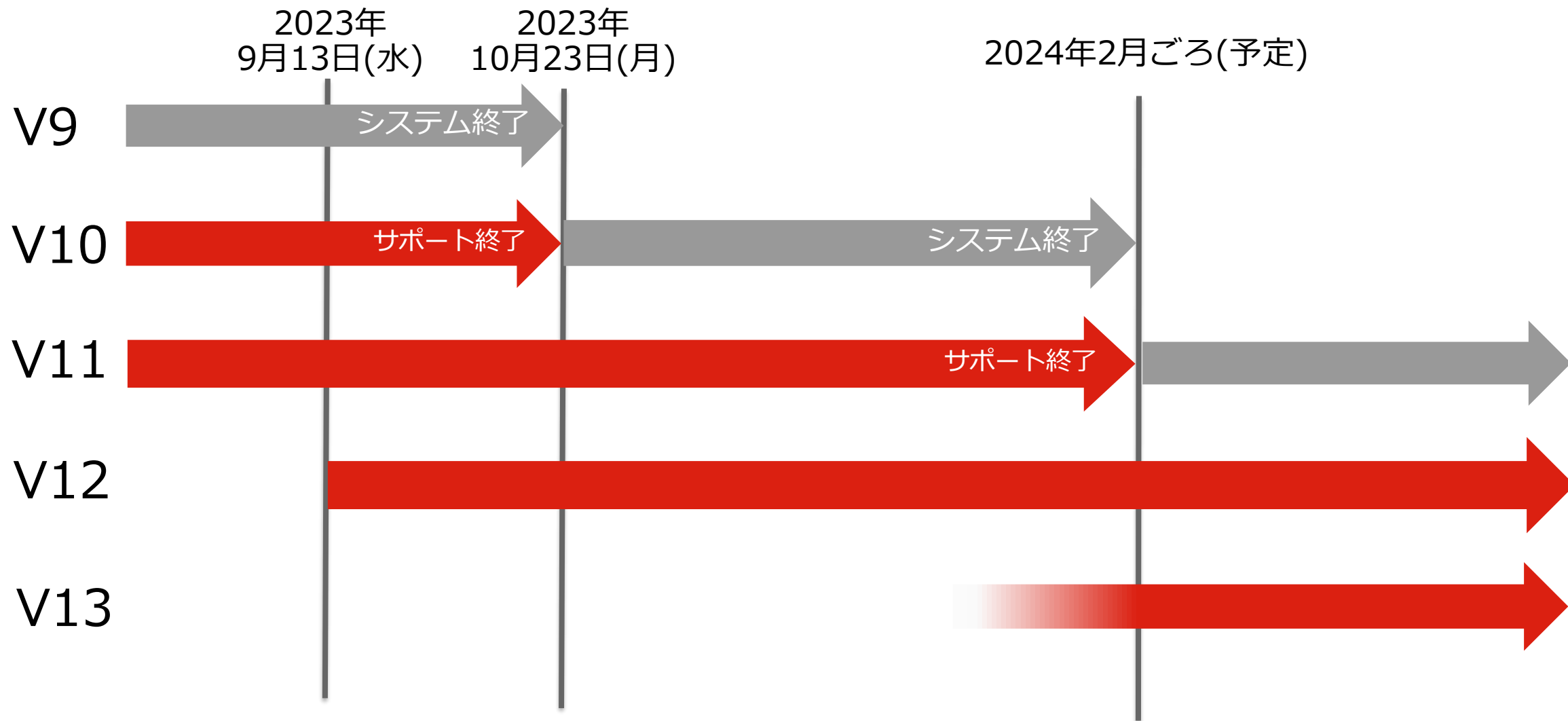
Yahoo! JAPAN Ads API Webinar September, 2023

Agenda

1. ロードマップ
2. v12アップデート情報
3. 各種情報共有
4. 質疑応答

1. ロードマップ

Yahoo!広告 APIシステム終了、サポート終了スケジュール



システム終了、サポート終了の予定は下記でも確認可能です。

<https://ads-developers.yahoo.co.jp/developercenter/ja/developers-guide/release-note.html>

※Yahoo!広告 API : 以降、APIと表記

API関連ロードマップ

2023年4～6月	2023年7～9月	2023年10月以降
<div><div></div> 拡張クリック単価(β版)</div>	<div><div></div> 拡張クリック単価</div> <div><div></div> RAD*アセット別レポート</div>	<div><div></div> データソース拡充(顧客電話番号)</div> <div><div></div> オーディエンスターゲティング刷新(サーチキーワード)</div> <div><div></div> 自動入札のスポット調整</div> <div><div></div> キャンペーン間の共有予算</div> <div><div></div> レスポンシブ検索広告 広告の有効性</div> <div><div></div> レスポンシブ検索広告 組み合わせレポート</div> <div><div></div> 広告表示オプション追加</div> <div><div></div> A/Bテスト</div> <div><div></div> MCC複数階層機能</div>

*レスポンシブディスプレイ広告

Yahoo!広告 検索広告

Yahoo!広告 ディ스플레이広告 (運用型)

共通

2. v12アップデート情報

Yahoo!広告 検索広告

キャンペーン間の共有予算

キャンペーンを横断して予算管理ができる「キャンペーンの共有予算」機能を提供します。

※v12リリース時点ではIFのみの公開で、実際にご利用いただけるのは機能リリース後となります（年内予定）。

[新規追加]

CampaignBudgetService

CampaignService の campaign.budget.campaignBudgetId

ReportDefinitionService の reportType 「CAMPAIGN_BUDGET」

AuditLogService の entityType 「CAMPAIGN_BUDGET」

キャンペーン間の共有予算

CampaignBudgetService で追加した後、CampaignService で campaignBudgetId を指定します。

キャンペーン共有予算が設定されているキャンペーンは過去バージョン（v11以前）では campaignBudgetId が取得できませんので、v12以降をお使いください。

① CampaignBudgetService で追加

CampaignBudgetService/add のリクエスト例

```
{
  "accountId": 123456,
  "operand": [
    {
      "accountId": 123456,
      "campaignBudgetName": "共有予算1",
      "amount": 1000000
    }
  ]
}
```

v12～

② CampaignService で campaignBudgetId を指定

CampaignService/set または add のリクエスト例

```
{
  "accountId": 123456,
  "operand": [
    {
      "accountId": 123456,
      "campaignId": 1234567,
      "budget": { // ※
        "campaignBudgetId": 11111
      }
    },
    ... // 以下略
  ]
}
```

v12～

※amount と campaignBudgetId は両方同時に設定することはできませんのでご注意ください。

自動入札のスポット調整

自動入札のコンバージョン率を短期間で調整できる「自動入札のスポット調整」機能に対応しました。こちらに伴い、BiddingSeasonalityAdjustmentService を追加しました。

```
BiddingSeasonalityAdjustmentService/add のリクエスト例      v12~
{
  "accountId": 12345,
  "operand": [
    {
      "accountId": 12345,
      "biddingSeasonalityAdjustmentName": "自動入札スポット設定1",
      "description": "10月1日～10月7日の間はコンバージョン率を90%引き下げる",
      "devices": [ "MOBILE","TABLET","DESKTOP"],
      "startDateTime": "20231001000000",
      "endDateTime": "20231007235959",
      "conversionRate": 0.1,
      "campaignIds": [1234567, 2345678]
    }
  ]
}
```

ご参考：検索広告 自動入札のスポット調整の提供について

<https://ads-developers.yahoo.co.jp/ja/ads-api/announcement/230802.html>

Yahoo!広告 ディスプレイ広告

レスポンシブディスプレイ広告のレポートの仕様変更について

■ 概要

レスポンシブディスプレイ広告のレポートで、メディアID、タイトル、説明文を指定した場合の挙動が変更となります。

変更前：メディアID、タイトル、説明文を指定してもメディアID単位でのレポート出力でした。

変更後：メディアID、タイトル、説明文単位でのレポート出力となります。

■ 予定日

6月28日（水） **※管理画面のみ。Yahoo!広告 APIではv12以降の対応となります。**

管理画面上では6月28日（水）から仕様変更となりましたが、Yahoo!広告 APIではv12での対応となります。

タイトル、説明文の動作区分はSegment項目（分割項目）となるため、v12へのバージョンアップの際はご注意ください。

次スライドで変更前後のイメージをお示しします。

ご参考：【ディスプレイ広告（運用型）】レスポンシブディスプレイ広告におけるタイトル別・説明文別レポート提供開始のお知らせ

<https://ads-developers.yahoo.co.jp/ja/ads-api/announcement/230613.html>

レポートの「動作区分/Behavior Type」について

<https://ads-developers.yahoo.co.jp/ja/ads-api/developers-guide/about-report.html>

レスポンシブディスプレイ広告レポートの仕様変更について

変更前後のイメージ

変更前：～v11

広告名	メディアID	タイトル	説明文	IMPS
広告 1	111	--	--	10
広告 1	222	--	--	20

変更後：v12～ ※現在管理画面から出力される形式

広告名	メディアID	タイトル	説明文	IMPS
広告 1	111	タイトル 1	説明文 1	5
広告 1	111	タイトル 1	説明文 2	1
広告 1	111	タイトル 2	説明文 1	3
広告 1	111	タイトル 2	説明文 2	1
広告 1	222	タイトル 1	説明文 1	12
…以下割愛				

ご参考：【ディスプレイ広告（運用型）】レスポンシブディスプレイ広告におけるタイトル別・説明文別レポート提供開始のお知らせ

<https://ads-developers.yahoo.co.jp/ja/ads-api/announcement/230613.html>

コンバージョンのインポート機能

ウェブサイト外で発生したコンバージョンのインポート機能に対応しました。

来店や実店舗での購入など、ウェブサイト以外で発生したコンバージョンを取り込むことで、広告配信が最適化され、広告効果の向上が見込めます。ぜひご利用ください。

次のスライドで既存の検索広告のOfflineConversionService、ディスプレイ広告の[コンバージョンAPI](#)との違いをご提示します。

[新規追加]

OfflineConversionService

ConversionTrackerServiceのconversionTrackerTypeに「IMPORT」を追加

ご参考：ディスプレイ広告 コンバージョンのインポート機能の提供について
<https://ads-developers.yahoo.co.jp/ja/ads-api/announcement/230719.html>

コンバージョンのインポート機能

今回追加となったディスプレイ広告のOfflineConversionService と、既存の検索広告のOfflineConversionService、ディスプレイ広告の[コンバージョンAPI](#)との違いは以下のとおりです。

	ディスプレイ広告の OfflineConversionService	検索広告の OfflineConversionService	ディスプレイ広告の コンバージョンAPI
基盤	Yahoo!広告 API	Yahoo!広告 API	Yahoo!ディベロッパーネットワーク
取り込み可能な項目	yclid	yclid	yclid、電話番号、メールアドレス
取り込み可能な CV設定	「インポート」のみ	「インポート」のみ	全て（ウェブページ、アプリ、 電話発信、インポート）
yclidの取得元	Cookie	URLパラメータ	Cookie
1リクエストで 扱えるCVの数	複数 （ファイルアップロード）	複数 （ファイルアップロード）	1
登録済データの ダウンロード	不可 （downloadメソッド無）	可能 （downloadメソッド有）	-
リファレンス	https://ads-developers.yahoo.co.jp/reference/ads-search-api/v12/OfflineConversionService/	https://ads-developers.yahoo.co.jp/reference/ads-display-api/v12/OfflineConversionService/	https://github.com/yahoojp-marketing/ads-data-management-api-documents

削除済みエンティティのレポート除外対応

ReportDefinitionService/addにreportIncludeDeletedを追加します。

falseを指定すると、削除済みのエンティティをレポートの出力対象から除外します。trueの場合は今まで通り削除済みエンティティを含めて出力します。

デフォルトはtrueなので、明示的にfalseを指定しない限り動きは変わりません。

例) キャンペーンAの広告グループAの広告Bが削除済の場合

キャンペーン名	広告グループ名	広告名	IMP	CV	コスト
キャンペーンA	広告グループA	広告A	1000	20	3000
キャンペーンA	広告グループA	広告B	3000	11	1500
キャンペーンB	広告グループB	広告C	2000	5	600

reportIncludeDeleted = False
だとこの行は出力されません

Yahoo!広告 共通

操作履歴のフォーマット変更について

操作履歴の項目が、検索とディスプレイで統一されました。
列を指定して処理をしている場合はバージョンアップの際、ご注意ください。
また、v11以前で add した操作履歴は、v12では get できませんのでご注意ください。

例) v11の検索

日時	操作した利用者	ソースタイプ	アカウント名	アカウントID	キャンペーン名	キャンペーンID	広告グループ名	広告グループID	広告名	広告ID	～中略～	エンティティ	イベントタイプ	項目	更新前	更新後
----	---------	--------	--------	---------	---------	----------	---------	----------	-----	------	------	--------	---------	----	-----	-----

アカウント名、アカウントIDなどの列が後ろに移動しています。

例) v12（共通）

更新日時	更新者	更新ソース	エンティティ	エンティティ名	エンティティID	イベントタイプ	項目名	更新前	更新後	アカウント名	アカウントID	キャンペーン名	キャンペーンID	広告グループ名	広告グループID
------	-----	-------	--------	---------	----------	---------	-----	-----	-----	--------	---------	---------	----------	---------	----------

操作履歴のフォーマット変更について

操作履歴の項目が、検索とディスプレイで統一されました。
列を指定して処理をしている場合はバージョンアップの際、ご注意ください。
また、v11以前で add した操作履歴は、v12では get できませんのでご注意ください。

例) v11の検索

日時	操作した利用者	ソースタイプ	アカウント名	アカウントID	キャンペーン名	キャンペーンID	広告グループ名	広告グループID	広告名	広告ID	～中略～	エンティティ	イベントタイプ	項目	更新前	更新後
----	---------	--------	--------	---------	---------	----------	---------	----------	-----	------	------	--------	---------	----	-----	-----

広告名、広告IDなどの各項目が「エンティティ名」「エンティティID」として統合しました。

例) v12（共通）

更新日時	更新者	更新ソース	エンティティ	エンティティ名	エンティティID	イベントタイプ	項目名	更新前	更新後	アカウント名	アカウントID	キャンペーン名	キャンペーンID	広告グループ名	広告グループID
------	-----	-------	--------	---------	----------	---------	-----	-----	-----	--------	---------	---------	----------	---------	----------

操作履歴のフォーマット変更について

検索の AuditLogService/add で指定する期間が、ディスプレイに合わせて日時分秒単位から日時単位となりました。

※下位互換はしていませんので、バージョンアップの際は時分秒部分の削除をお願いいたします。

～v11

```
AuditLogService/add のリクエスト例
{
  "accountId": 12345,
  "operand": [
    {
      "accountId": 12345,
      "dateRange": {
        "startDate": "20230901000000",
        "endDate": "20230913235959"
      },
      "encoding": "SJIS",
      ... //以下略
    }
  ]
}
```

v12～

```
AuditLogService/add のリクエスト例
{
  "accountId": 12345,
  "operand": [
    {
      "accountId": 12345,
      "dateRange": {
        "startDate": "20230901",
        "endDate": "20230913"
      },
      "encoding": "SJIS",
      ... //以下略
    }
  ]
}
```

操作履歴のフォーマット変更について

検索同様、ディスプレイの AuditLogService/add で出力形式が output で指定できるようになりました。

これにより、zip形式やtsv形式も出力できるようになりました。

v12～

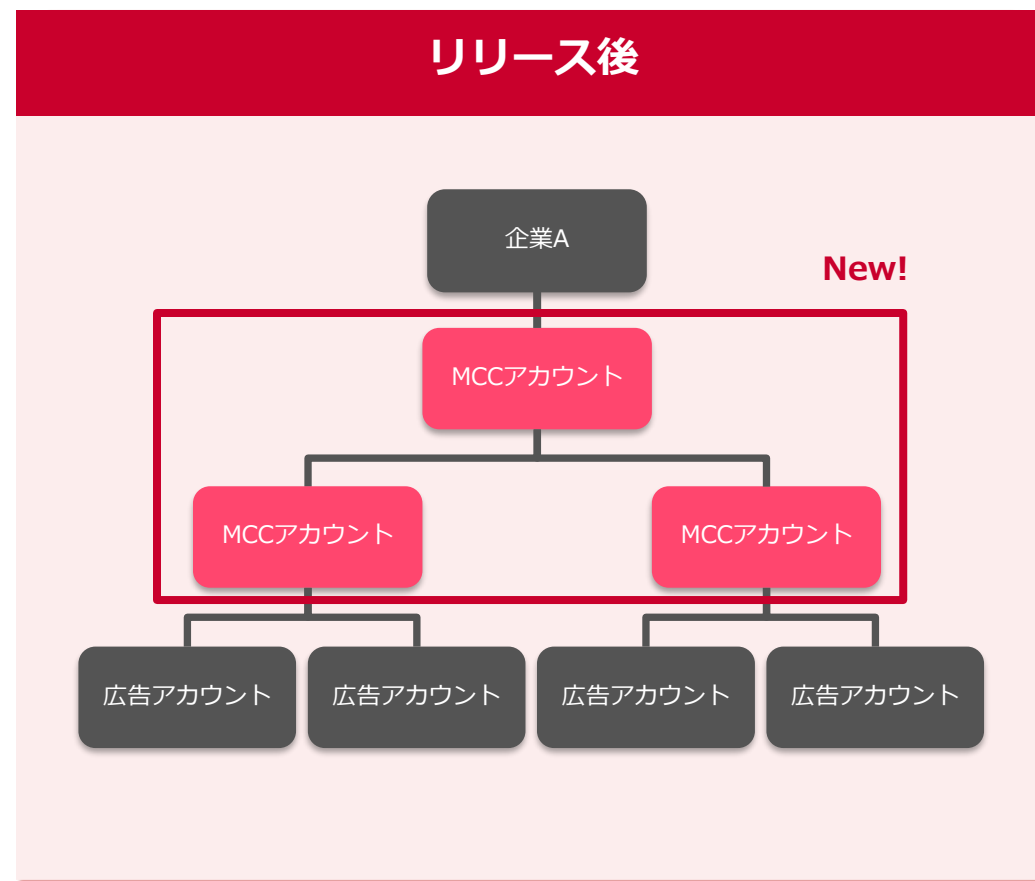
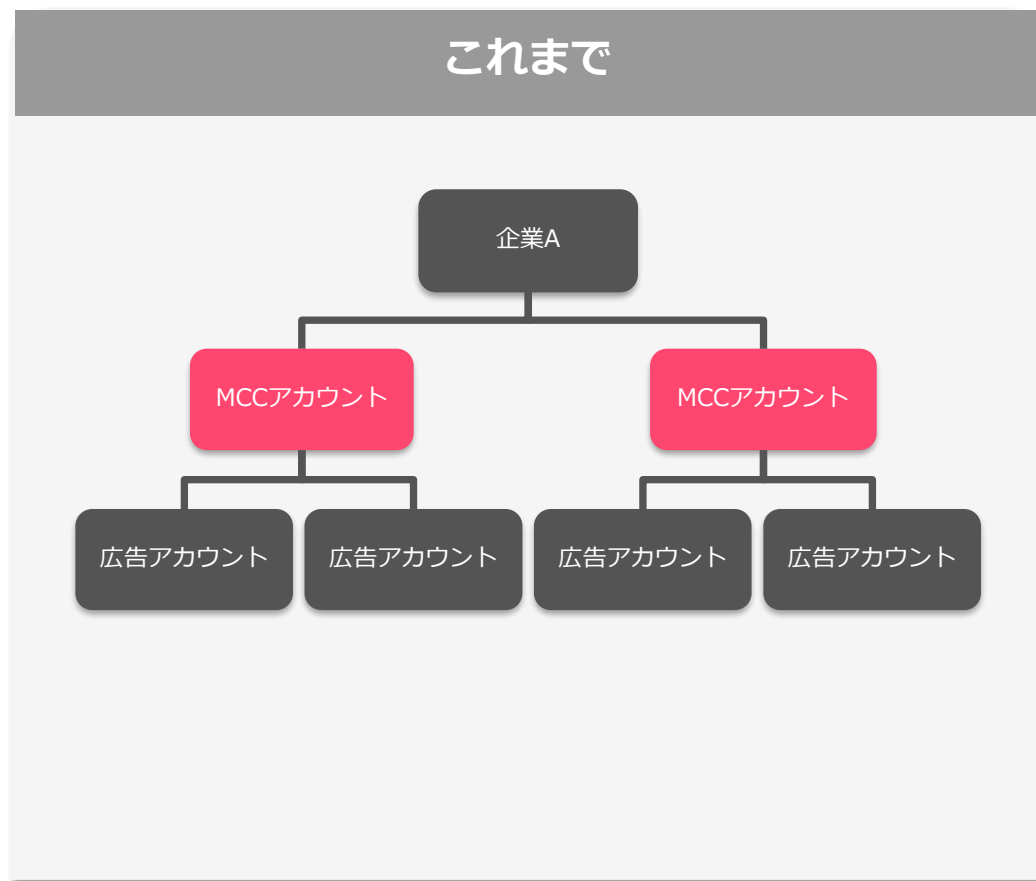
AuditLogService/add のリクエスト例

```
{
  "accountId": 12345,
  "operand": [
    {
      "accountId": 12345,
      "dateRange": {
        "endDate": "20230901",
        "startDate": "20230913"
      },
      "output": "ZIPPED_CSV",
      ... //以下略
    }
  ]
}
```

MCCアカウントの複数階層

MCCアカウントを複数階層設定できるようになりました。

これにより、アカウントの操作及び権限の考え方が変更になりました。



ご参考 : Yahoo!広告 MCCアカウント 複数階層構造での設定に対応
<https://ads-developers.yahoo.co.jp/ja/ads-api/announcement/230608.html>

「x-z-base-account-id」の指定について

v12からHTTPヘッダー「x-z-base-account-id」にベースとなるアカウントIDの指定が必須となります。

ベースとなるアカウントは、BaseAccountServiceから取得可能です。

```
curl -X POST ¥  
https://ads-search.yahooapis.jp/api/v12/AccountService/get ¥  
-H 'Content-Type: application/json' ¥  
-H 'Authorization: Bearer Access_Token' ¥  
-H 'x-z-base-account-id: xxxxxxxx' ¥  
-d '{ ¥  
  accountId: xxxxxxxx ¥  
}' ¥
```

※ BaseAccountServiceは「x-z-base-account-id」なしで利用可能です。

ご参考：APIコールを実施する

<https://ads-developers.yahoo.co.jp/ja/ads-api/startup-guide/api-call.html>

「x-z-base-account-id」に指定するアカウントの種類

BaseAccountService/getで返却されるアカウントは下記の4種類があります。

アカウントの種類	取得可能な権限	操作可能な範囲
ルートMCC	Yahoo!広告のツール管理者	企業内のすべてのMCCアカウント、 広告アカウント、テストアカウント
MCCアカウント	MCCアカウントに直接権限を付与されたビジネスID	対象MCCアカウント配下のMCCア カウ ント、 広告 ア カ ウ ント
広告アカウント	広告アカウントに直接権限を付与されたビジネスID	対象の広告アカウント
テストアカウント	Yahoo!広告 APIお申し込みビジネスID テストアカウント追加のお申し込みビジネスID	対象のテストアカウント

ご参考：BaseAccountService/get のリファレンス

検索：<https://ads-developers.yahoo.co.jp/reference/ads-search-api/v12/BaseAccountService/get/>

ディスプレイ：<https://ads-developers.yahoo.co.jp/reference/ads-display-api/v12/BaseAccountService/get/>

「x-z-base-account-id」で指定したアカウントの操作範囲と権限について

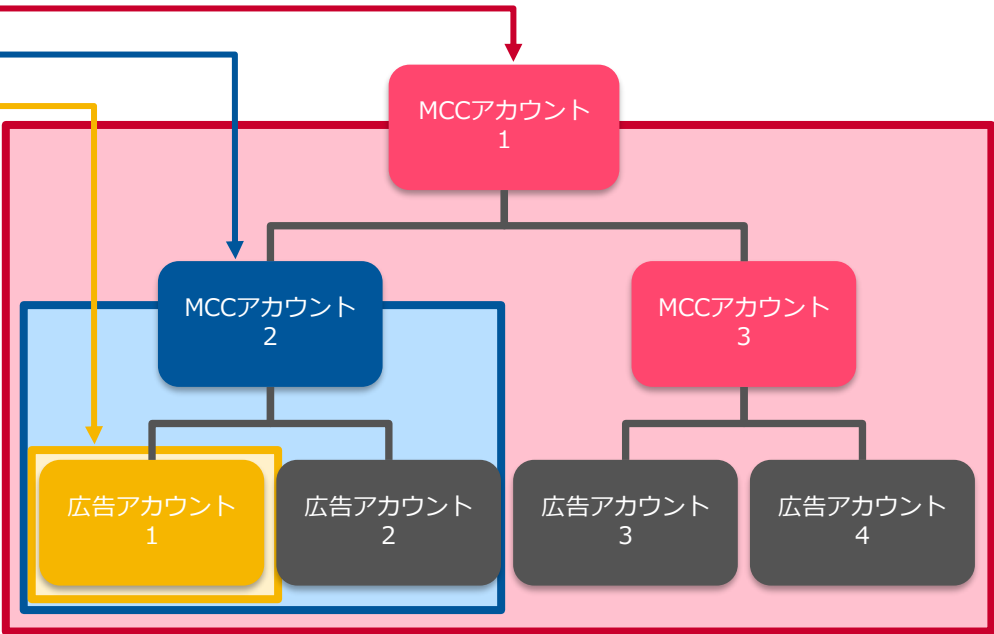
指定した「x-z-base-account-id」により、操作可能なアカウントと権限が決まります。

下記は、MCCアカウント1、MCCアカウント2、広告アカウント1に権限付与されているユーザを使ってBaseAccountServiceで取得した例となります。



アカウント	付与されている権限
MCCアカウント 1	管理権限
MCCアカウント 2	登録更新権限
広告アカウント 1	参照権限

指定した「x-z-base-account-id」	操作可能なアカウント	各アカウント操作に適用される権限
MCCアカウント 1	MCCアカウント1~3 広告アカウント1~4	管理権限
MCCアカウント 2	MCCアカウント2 広告アカウント1~2	登録更新権限
広告アカウント 1	広告アカウント1	参照権限



権限の取得先について

従来はアカウント単位で設定されていた権限は、v12より「x-z-base-account-id」で指定するアカウント単位に変更となります。

AccountService/getのレスポンス

```
"account": {  
  "accountId": xxxxx,  
  "accountName": "アカウントA",  
  "accountStatus": "INPROGRESS",  
  "authType": "REFERABLE",  
  "isManagerAccount": "FALSE",  
  . . .  
}
```

BaseAccountService/getのレスポンス

```
"account": {  
  "accountId": xxxxx,  
  "accountName": "アカウントA",  
  "accountStatus": "INPROGRESS",  
  "authType": "REFERABLE",  
  "isManagerAccount": "FALSE",  
  . . .  
}
```

ルートMCCについて

最上位階層のMCCアカウントとして「ルートMCC」が全ての企業に作成されます。

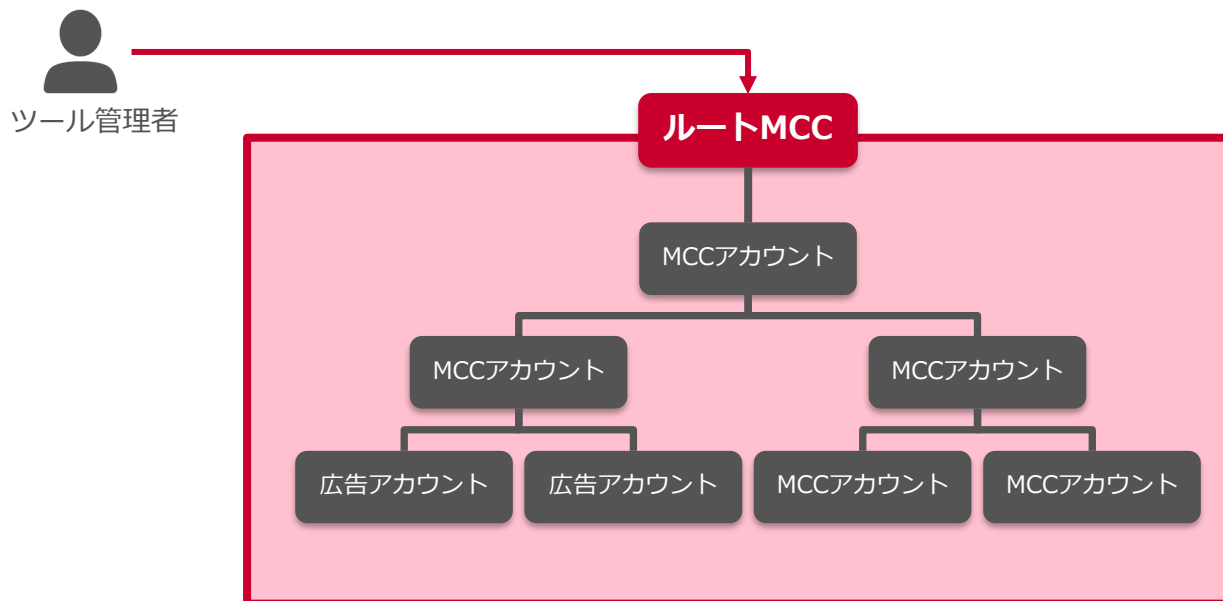
ルートMCCは1企業につき1つ作成され、**広告管理ツールの管理者※のみに権限が付与**されます。

※これ以降「ツール管理者」と表記

ツール管理者で認証した場合のみ、BaseAccountServiceでルートMCCを取得でき、

「x-z-base-account-id」に指定した場合は、全てのアカウントを管理権限で操作可能となります。

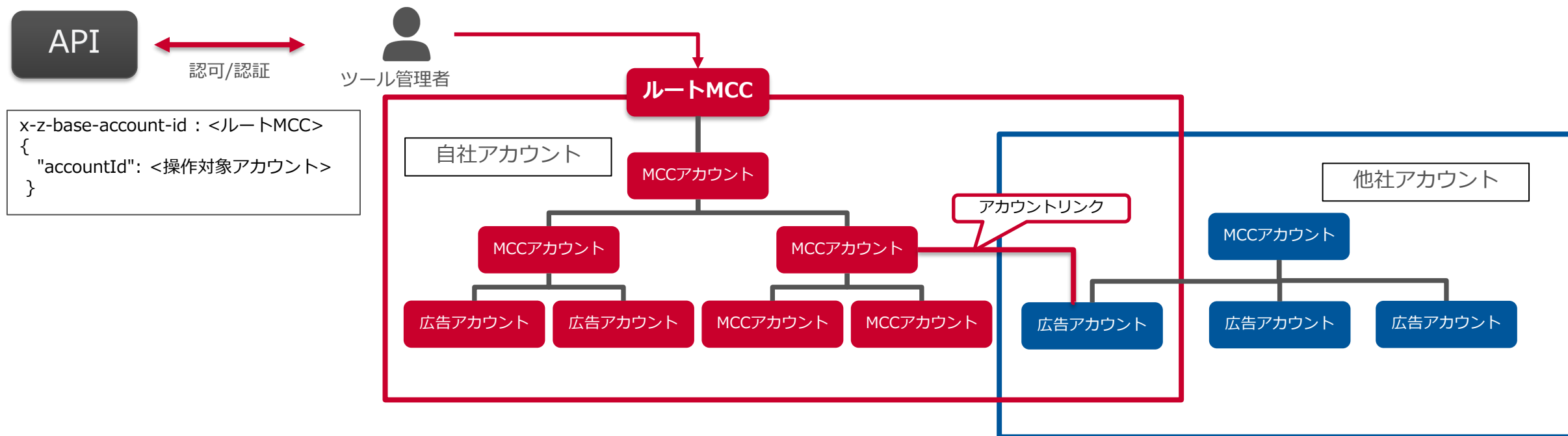
ただし、アカウント招待で付与された社外のアカウントについてはルートMCCでは取得できません。



「x-z-base-account-id」に何を指定すればよいか1

Case1：自社開発で、基本的に自社の広告アカウントを操作したいケース

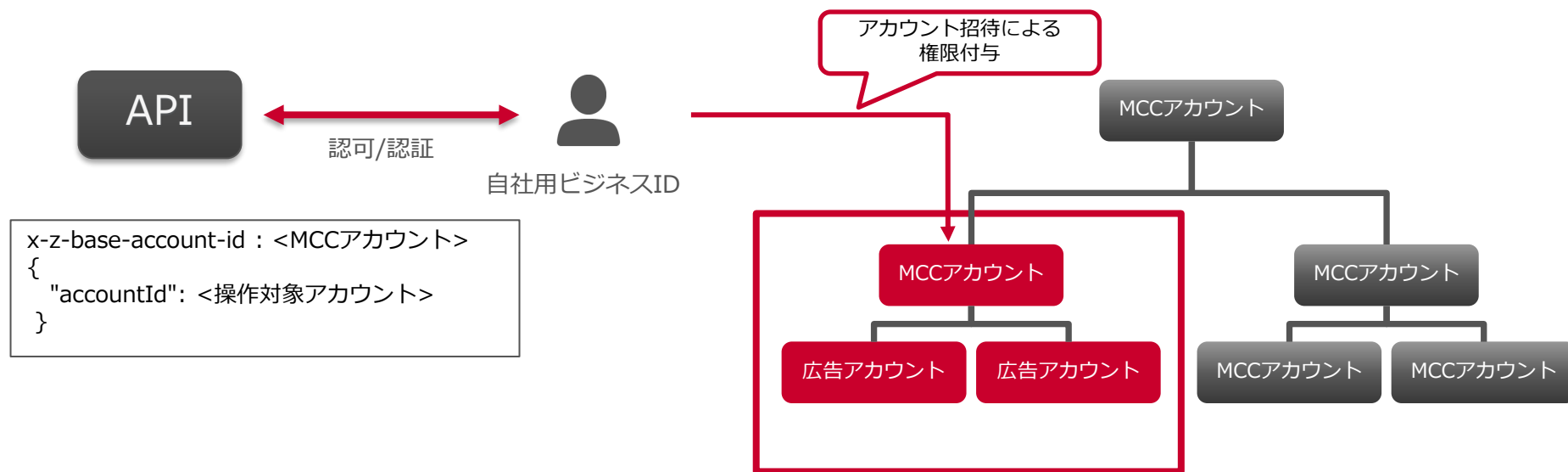
ルートMCCで自社のすべてのアカウントを操作します。他社アカウントはアカウントリンクで自社のMCC配下に繋げることで操作が可能です。



「x-z-base-account-id」に何を指定すればよいか2

Case2：他社に預けている広告アカウントに対し、自社開発のシステムで操作したいケース

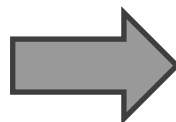
操作対象としたいアカウントに対し権限を付与し、「x-z-base-account-id」は権限を付与したアカウントを指定します。下記例は、MCCアカウントに権限が付与されているので、「x-z-base-account-id」にMCCアカウントを指定し、各広告アカウントにアクセスを行うことを示しています。



「x-z-base-account-id」に何を指定すればよいか3

Case3：不特定多数のユーザが利用するケース（サードパーティツールなど）

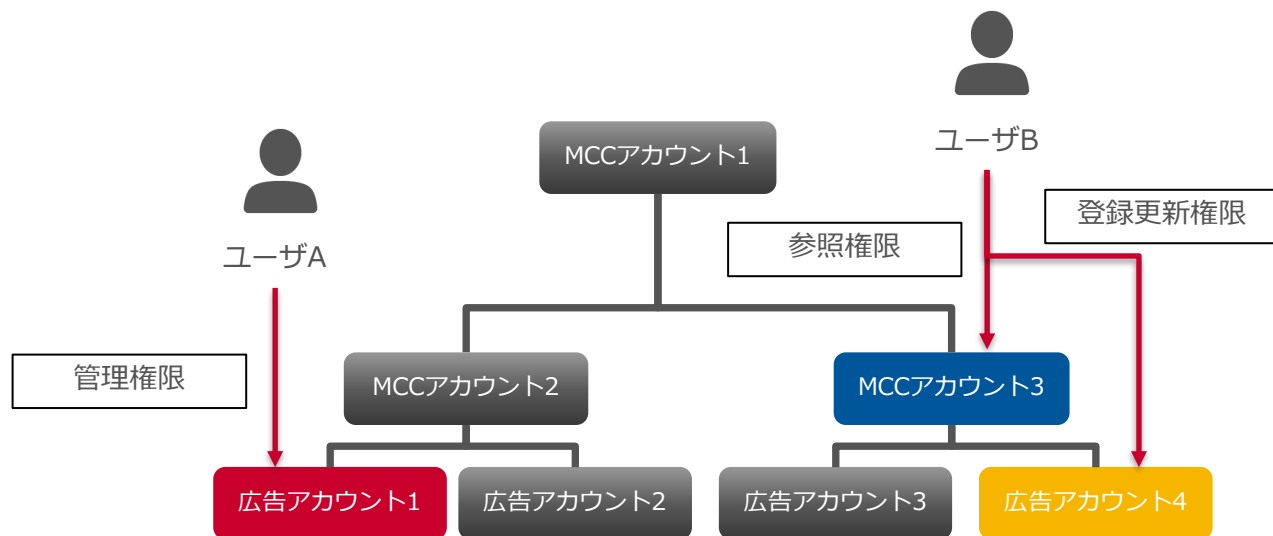
認可画面後、ツールログイン時などのタイミングでユーザに「x-z-base-account-id」に指定するアカウントを選択頂きます。



「x-z-base-account-id」に何を指定すればよいか4

Case4：権限管理の整理が間にあわず、とりあえず現状維持をおこないたい

BaseAccountServiceとAccountServiceを使いマッピング表を作成いただきます。
API認証したビジネスIDが持つ「x-z-base-account-id」の権限一覧を取得し、最上位の権限を使うイメージです。



「x-z-base-account-id」	操作対象アカウント	権限
広告アカウント 1	広告アカウント 1	管理権限
MCCアカウント 3	MCCアカウント 3	参照権限
MCCアカウント 3	広告アカウント 3	参照権限
広告アカウント 4	広告アカウント 4	登録更新権限

テストアカウントをコールするには

テストアカウントを実行する際は、テストアカウント自身またはルートMCCを「x-z-base-account-id」に指定することでAPIコールする事が可能です。

例) ルートMCC : 100 テストアカウント : 200 の場合

①ルートMCCを「x-z-base-account-id」に指定し操作する場合

```
x-z-base-account-id : 100
{
  "accountId": 200
}
```

②テストアカウントを「x-z-base-account-id」に指定し操作する場合

```
x-z-base-account-id : 200
{
  "accountId": 200
}
```

※Yahoo!広告API申込ビジネスIDまたは、
テストアカウント追加申込ビジネスIDのみ可能

ご参考 : テストアカウントについて
<https://ads-developers.yahoo.co.jp/ja/ads-api/developers-guide/test-account.html>

OpenAPIを利用して生成するクライアントについて

OpenAPIを利用してクライアントを生成している場合、「x-z-base-account-id」の対応が必要となります。

下図のように、関数の引数で指定する形となります。

例) AccountService/get で生成される Java の関数におけるv11（背景赤）とv12（背景緑）の差分

```
* @param accountServiceSelector (optional)
* @return AccountServiceGetResponse
* @throws RestClientException if an error occurs while attempting to invoke the API
*/
public AccountServiceGetResponse accountServiceGetPost(AccountServiceSelector accountServiceSelector) throws RestClientException {
    return accountServiceGetPostWithHttpInfo(accountServiceSelector).getBody();
}
public AccountServiceGetResponse accountServiceGetPost(Long xZBaseAccountId, AccountServiceSelector accountServiceSelector) throws RestClientException {
    return accountServiceGetPostWithHttpInfo(xZBaseAccountId, accountServiceSelector).getBody();
}
```

「x-z-base-account-id」指定

ご参考 : Yahoo!広告 APIのOpenAPI Specification

検索 : <https://github.com/yahoojp-marketing/ads-search-api-documents/tree/master/design/v12>

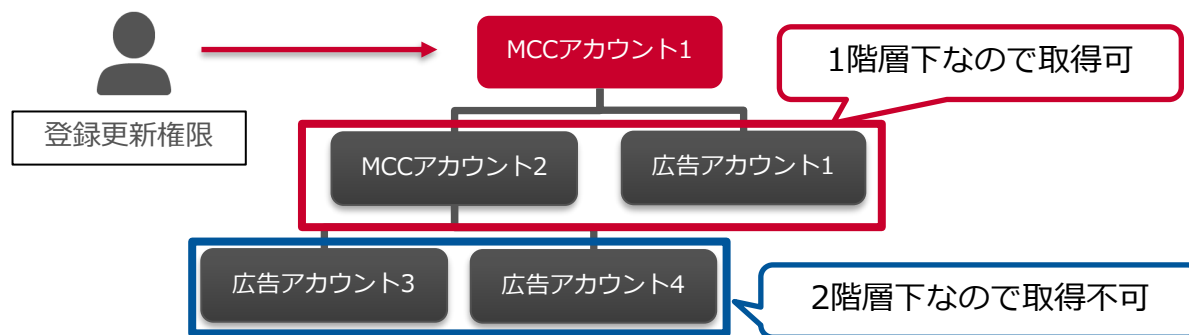
ディスプレイ : <https://github.com/yahoojp-marketing/ads-display-api-documents/tree/master/design/v12>

過去バージョンの挙動について

過去バージョンについては、「x-z-base-account-id」を指定しなくても今までどおりの挙動となります。

ただし、2階層以下のアカウントに権限がついていない状態で、ツール管理者以外でデータを取得することはできません。2階層以下のアカウントに権限がついていない場合は、v12をお使いください。

例) ツール利用者がMCCアカウント1のみの権限を持っている場合



過去バージョンの挙動について

過去バージョンでの「x-z-base-account-id」を指定してのコールも可能です。

v12の本格的な開発の前に挙動を確認する手段としてお使いください。

認証したビジネスIDで取得可能なベースアカウントは、v12のBaseAccountServiceをお使いください。

3. 各種情報共有

Java利用者向けクライアントライブラリについて（再掲）

前回のバージョン（v11）から、Java利用者向けクライアントライブラリについてSpring Framework 6系に対応しています。

一定期間はこれまで通りの動作環境を維持したバージョン（“-spring5”がついたもの）を並行して提供いたします。

APIバージョン	リリースタグ	Javaバージョン	Spring framework
v12	6.0.0-spring5	8+	5.3.x
v12	6.0.0	17+	6.x.x

Spring framework 5.3系が 2024/12/31 にEOLを迎えるため、“-spring5” 付きのリリースバージョンは、一定の期間を経てサポートを終了する予定です。

クライアントライブラリをご利用のお客様は、なるべく早いうちに

“-spring5” がついていないSpring Framework 6系のクライアントライブラリへ移行していただくようお願いします。

ご参考：Java利用者向けクライアントライブラリ

<https://github.com/yahoojp-marketing/ads-display-api-java-lib>

<https://github.com/yahoojp-marketing/ads-search-api-java-lib>

YAHOO! 広告
JAPAN

Yahoo!広告 ウェブサイト

<https://marketing.yahoo.co.jp/service/yahooads/>